

研究過程

期 日	講師（助言者）	テーマ及び講師	俯瞰図番号	人数
5月13日(水)	高橋 かほる先生 (聖徳大学児童学部 児童学科准教授)	幼稚園教諭として大切なこと	B1 - I	
5月20日(水)	藤田 ともひこ先生 (絵本作家)	絵本をあそぶ、劇をあそぶ	E9 - I	116
6月17日(水)	神田 浩行先生 (環境共育事務所 K&K プランニング代表)	自然触れ合いを考える	E4 - II	102
9月9日(水)	久保山 茂樹先生 (独立行政法人国立特別支援保育 総合研究所企画部主任研究員)	支援の必要な子どもや保護者とつながりあうために —いま、大切にしたいこと—	D3 - I D4	100
10月21日(水)	山野 さとこ先生 たけだ先生 (童謡歌手・助手)	リズムあそびとオペレッタ入門 —笑顔とエガオでこんにちは—	E5 - I	107
11月18日(水)	細田 淳子先生 (東京家政大学教授)	発表会に向けての保育計画試案 —遊びのなかで育まれる力—	E3 - I	68
1月20日(水)	内藤 知美先生 (東京都市大学人間学部教授)	「子どもの言葉をはぐくむ保育」	C1 - I	160

研究参加園（44園）

江川幼稚園 川崎ふたば幼稚園 川崎さくら幼稚園 若宮幼稚園
 東三輪幼稚園 小田双葉幼稚園 ゆりかご幼稚園 浅田幼稚園
 大師幼稚園 梅園幼稚園 小峰幼稚園 川崎こまどり幼稚園
 鹿島田幼稚園 すみのえ幼稚園 サクラノ幼稚園 宮内幼稚園
 つぼみ幼稚園 大楽幼稚園 若竹幼稚園 川崎めぐみ幼稚園
 たちばな幼稚園 津田山幼稚園 梶ヶ谷幼稚園 新作やはた幼稚園
 川崎たまがわ幼稚園 宮前幼稚園 有馬白百合幼稚園 初山幼稚園
 サレジオ幼稚園 さぎぬま幼稚園 ひばり幼稚園 潮見台みどり幼稚園
 宮崎台幼稚園 丸山幼稚園 菅幼稚園 東菅幼稚園
 宿河原幼稚園 桐光学園みどり幼稚園 玉川幼稚園 桐光学園寺尾みどり幼稚園
 柿の実幼稚園 川崎青葉幼稚園 こうりんじ幼稚園 ちよがおか幼稚園

新任教職員研修会並びに歓迎会

月 日 平成 21 年 5 月 13 日 (水)

場 所 中原市民館ホール

講 師 高橋 かほる先生

(聖徳大学児童学部児童学科准教授)

テーマ：望ましい教師の姿

『幼稚園教諭として、大切なこと！』

俯瞰図番号 B1 - 1

1. 開会の言葉

2. 会長挨拶 井上 久先生

- ・皆さんのお選びになった幼稚園教育は、本当に素晴らしい世界。
- ・幼稚園協会の話。川崎市内の 85 園が 100% 加入しているもの。教育の振興が目的である。
- ・初めての社会人としての生活で人間関係や保護者への対応など苦労もあるかもしれないが、ストレスをためず、解消できるようにして行ってほしい。

3. 来賓祝辞 市民・子ども局こども本部長

星 栄 様

- ・川崎市について
少子化のなか、川崎市は就学前微増傾向にあり、幼稚園や学校への期待が高まっている。
- ・憧れていた幼稚園での生活は実際との違いもあり、不安になることもあるのではないかと。幼児期は人間形成の大切な時期である。ご家庭との連携も大切に頑張ってください。

4. 研修部長挨拶 山田 まり子先生

- ・研修部について
園長先生、理事長先生、主任の先生で研修部を構成している。沢山の先生の力があって、研修が成り立っている。
一人の人間として、保育者として研修を通して素敵な先生であってほしい。
- ・ハンドブック、統合保育へのとびら、つな

がり楽しむあそび集について

5. 歓迎のことは 桐谷 敬子先生
(川崎めぐみ幼稚園)

- ・保育というのは、やりがいのある仕事。
3つの言葉
1)自分から何でも聞き学ぶ心、向上心を持つ。
2)保育はつくり出すもの。楽しむ心を忘れずに。
3)子どもたちの前に立った瞬間に保育が始まる。健康に気をつけること。
- ・学ぶ姿勢を持って研修をする。又、感謝の気持ちを持ち、充実した毎日を送るように。

6. 記念講演

テーマ 望ましい教師の姿

『幼稚園教諭として、大切なこと！』

講師 高橋 かほる先生

(聖徳大学児童学部児童学科准教授)

<内容>

①教諭として大切なこと

「子どもであり、大人であること」
子ども性を生かす。無邪気さ、笑顔。

◎子どもから学ぶ＝子ども化する。

自分自身の子ども性を大切に。又、子どもを尊重し、相互の関係性を築く。

②先生とは (5つ)

- 1)みずみずしさ (初心を忘れない)
- 2)好奇心旺盛 (チャレンジ精神)
- 3)素直 (やりたい、知りたい、見たい)
- 4)率直 (思ったら何でも言う姿)
- 5)全力投球 (出し惜しみをしない)

③大人とは (5つ)

- 1)責任を持つ。(命の安全を保障する)
→保護者は子どもの命を守ってほしい。
- 2)状況の報告、判断をする。
→状況を見て、判断して応用していく。
- 3)決まりやルールを守りながら行動する。
→見通しを立て、早めに行動する。

4) その場にふさわしい見だしなみ、言葉遣いをする。

④まとめ

幼稚園教諭として大切なことは、

1. 関係性のなかで生きられること
相手の立場になることで他理解ができ、自己需要ができる。関係性を育てるのが保育。
2. 分別がある行動ができること
相手の立場に立てるから感情と行動を分けられる。裏表がない。

◎幼児期に育てなければいけない。

社会的行動として伝える。

(例「×だけど～してみよう」)

3. 自立していること
 - 生活的自立…基本的な生活習慣。心身のコントロール。
 - 精神的自立…ハプニングがあっても、自分で自分を立ち直らせる。
 - 金銭的自立…自分のお金で生活する。ふさわしく生きていく。
 - 性の自立…性に対して自立する。素敵なことなんだということ、性に対する憧れ。
 - 知の自立…能動的に学ぶということ。
4. 専門性を磨いていくこと
人間の大本。子どもから、より学べるようになる。
5. 目的を見失わないようになる

子どもたちの人生に最初に出会う人。

とても大きい影響力を及ぼす。

自分の思いを素直に口にする。同時に大人であることが大切である。

第1回 新任教諭研修会

月 日 平成 21 年 5 月 20 日 (水)

場 所 国際交流センター

講 師 藤田 ともひこ先生 (絵本作家)

テーマ：絵本をあそぶ 劇をあそぶ

俯瞰図番号 E9 - 1

1. 遊ぶうた

① ♪ クラゲがフワフワフワフワ～

隣の人に降ってきた フワ～
ほっぺに降ってきた フワ～
肩に降ってきた フワ～
背中に降ってきた フワ～
おへそに降ってきた フワ～
おひざに降ってきた フワ～

・両手をクラゲに見立てて体のさまざまなところに降ってくるようすを表現する。ふくらはぎや足の裏もおもしろい。隣の人と2人組で行う。

② ♪ (同じ歌をアレンジして)

クラゲがフワフワフワフワ～
向こうの方から飛んできて
頭にくっついた ぼうし
お目にくっついた 眼鏡
お口にくっついた マスク
お耳にくっついた イアホン、ピアス
体にくっついた 洋服、シャツ
背中にくっついた リュック、ランドセル

・降ってきたと歌っていたところを～にくっついたと歌い、くっついたら何になるかを想像したり考えたものを言葉にする。

2. 歌と絵本の紹介

① 「しーらんべったんゴリラ」

♪ りんごを食べたのだ～れ
しーらんべったんゴリラ

バナナを食べたのだ〜れ
 しーらんべったんゴリラ
 1・2・3・4・5・6・7
 (ワン・ツー・スリー・フォー・ファイブ・
 シックス・セブン)
 しーらんべったんゴリラ
 しーらんべったんゴリゴリラ

・「しーらんべったんゴリラ」絵本を見る

②「すっぽんぽん」(立って動きながら)

♪すっぽんぽん すっぽんぽん
 おしりまるだし すっぽんぽん
 おへそまるだし すっぽんぽん
 世界で一番好きなこと
 世界で一番好きなこと
 どうしてどうしてそうなるの
 どうしてどうしてそうなるの
 ♪すっぽんぽん すっぽんぽん
 おしりぶりぶり すっぽんぽん
 おへそぶりぶり すっぽんぽん
 なんだかうきうきしちゃうこと
 なんだかうきうきしちゃうこと
 どうしてどうしてそうなるの
 どうしてどうしてそうなるの

・「すっぽんぽん」絵本を見る。

③絵本「いただきバス」

(講師より)

・普通、絵本は声色を使う、ガタガタ動かさな
 いなど読み聞かせの授業や勉強で教わるだ
 ろう。しかし、あえてこの「いただきバス」
 は回したり動かしたり余計なことをしたり
 書いてはいけないことを言ったりした。それ
 はこの本に対しての冒涔ではなく、この本が
 誘っている。そうした方がおもしろいと言っ
 ている。
 「スーホーの白い馬」というモンゴルの昔の話
 がある。権力者が全てとってってしまうこ
 とと、本当に大切なものは何だろうと考えさ

せられる優しい、深い絵本。「スーホーの白い
 馬」は「いただきバス」のように読まない、
 必要がない。静かに、淡々と読む。「いただき
 バス」は淡々と深く読むタイプではない。そ
 うしてしまうとよさが出ない。

最初は普通に読んでいたが読めば読むほど
 このような読み方になっていった。絵本が一
 冊一冊違うのはそういうこと。両極端ではあ
 るが自分が見極めて楽しむ材料としたら、絵
 本というのはこんなに楽しいことはない!

④絵本「いもほりバス」

3. ゲーム(カードを使って)

- ①カードを5枚用意する。
- ②歩きまわり、相手にタッチをしてジャンケン
 をする。負けたら持っているカードを一枚
 渡す。

→いろんな人とコミュニケーションをとりなが
 らゲームを進めていく。カードを取られない
 ように逃げたり、しのいだり、くぐり抜けた
 りする。ゲームというより遊びなのでしのご
 ことができる。

◎遊びのルールはその場で決めればよい。ルー
 ルが分かる人たちで遊ぶ。

4. ゲーム(ひつじとハムスターチームに分か
 れて行う)

- ①スタートラインから先にある缶にタッチす
 ることを目的とする。
- ②だるまさんがころんだと同じルールで進め
 ていき、缶にタッチしたらカードを5枚も
 らえる。途中で動いてしまったら、スタート
 ラインからやり直し。

→「おさんぽ遊びハンドブックの紹介」

- ・カードの使い方として…
 ジャンケン遊び／だるまさんがころんだ／
 ぬり絵遊びなど。

5. 紙芝居「ドカドカジャンケン遊び」

研修会

- ・紙芝居の主人公であるコウヘイくんとジャンケンをしていくストーリー。

“ドカドカジャンケンポイ!”の掛け声でジャンケンをして、

○勝った人…プレゼント

○負けた人…一列に並んでいく

(講師より)

基本的に紙芝居は専用の舞台に入れるように言われるが、今回の「ドカドカジャンケン」のような内容は自由に動かせなくなる。お話のような内容は舞台に入れた方が演劇っぽい気分が盛り上がる。それぞれのよさを生かして探してみるとおもしろい。

- ◎紙芝居も参加型と静かにストーリーを聞くものがある。又、「ドカドカジャンケン」のジャンケンがかいてあるページは5枚あるので、毎回変えて楽しむことができる。

6. 劇遊びについて

- ・なぜ劇ではなく劇遊びなのか?

→台本があって劇をする。しかし、覚えるステップ(台詞や仕込みなど)があると子どもは大変!覚えるよりも遊んでいたいという子もいる。親としてはそういう場面で子どもの成長を確かめたいと思っている。例えば、歌えなかった歌が歌えるようになったということは、子どもも親も大切なこと。少しでもそう近づけていくには、最初は遊びでもよいのではないか。劇を遊んでほしいということから劇遊びにした。遊び歌をいくつか並べる。そのままステージで行い大人が少し解説を入れると劇のようになる。劇のような遊びを常にしていることが大切!

7. まねっこ遊び「こぶたちゃん」

♪ 1) ブーブーブー こぶたちゃん×2

ぐるっとまわってこんにちは ブ～

(こぶたちゃんがヤギさんに会いました)

2) メェーメェーメェー ヤギさん×2

ぐるっとまわってこんにちは メェ～

(こぶたちゃんがにわとりさんに会いました)

3) コッコッコッ にわとりさん×2

ぐるっとまわってこんにちは コケッコ
コー

(こぶたちゃんがカエルさんに会いました)

4) ピョンピョンピョン カエルさん×2

ぐるっとまわってこんにちは ケロケロ

(こぶたちゃんがうしさんに会いました)

5) モーモーモー うしさん×2

ぐるっとまわってこんにちは モォ～

(今日は楽しかったね。最後にみんなで踊りましょう)

6) ブーブーブー こぶたちゃん×2

ぐるっとまわってこんにちは ブ～

- ・年少さん向けである。

8. 卒園する時に読んであげたい本

「みんな大きくなった」

- ・歌の紹介

♪ あんなに泣き虫だった君が

一緒にここにいる

あんなに小さかった君が

一緒にここにいる

一人で歩けなかった君が

一緒にここにいる

一人で歌えなかった君が

友だちと歌っている

みんな強くなった

みんなやさしくなった

みんないい顔になった

みんな大きくなった

(最後に…講師より)

- ・みんなで批判ばかりをせず、よいアイデアだけ集めよう。よいアイデアを持ち寄ってセレ

クトして、よい道を歩いていけばそれでいい。大人たちにも言えること。失敗も糧とすればいい。次によいことを探せばいい。幸せいっぱいになることをしよう。

第2回 新任教諭研修会

月 日 平成21年6月17日(水)

場 所 自治会館ホール

講 師 神田 浩之先生

(環境共育事務所 K&K プランニング代表)

テーマ:「自然ふれあいの方法を考える」

俯瞰図番号 E4 - II

<内容>

・指令に従い、戸外へ出る。
→指令と書いてある4枚の紙から各園で一枚選び、戸外へ出る。

●指令の内容

- ①ビンのなかのにおいを嗅いで同じにおいのする葉を一枚とってくる。
- ②建物の周りがある樹からハート形の葉っぱの樹を探して一枚とってくる。
- ③建物の周りがある樹から丸くて赤い実を探してくる。(ヒントあり)
- ④建物の裏の④から⑥の間に色紙が置いてあるので何枚あるか数えてくる。

テーマ1 身近な自然(つながり楽しむあそび集 P.38 くんくんたんていだんより)

全員が戻ってきたあと、指令の内容を確認していく。

①クスノキ

(特徴) すごく大きくなる、樟のうの香り防虫剤に入っていた、春に花、秋に実、葉の裏側にふくらみがある(寄生虫がいる)、アゲハ蝶の幼虫が食べる。葉にもなり、住みかにも食べ物にもなる。

②ヤマモモ

(特徴) 食べてもいい、西日本で栽培してジャムになる。樹は20mの高さ。公園や街路樹に植えられることが多い、風媒花で花粉は20~30km以上も飛散する。

③カツラ

(特徴) 30mほどの高さ、日本固有の木。

秋に黄色くなる(紅葉する)

④擬態 カードは5枚あった。

(つながり楽しむあそび集 P.53 カモフラージュ)

・生き物は工夫している。

→隠ぺい擬態、攻撃擬態

(「むしのかくれんぼ」チャイルド、「むしたちのさくせん」福音館書店)

ポイント1

- ・幼児教育の基本は身近な自然、足下の自然との関係を築いていくこと=園庭(公園)の環境を生かした自然の保育
- ・はるか遠くの自然や将来学ぶであろう自然を「知る」ことより、子どもの頃は足元の自然との関係を築いていくこと、つまり触れて感じる事が大切である。

テーマ2 「自然と子どもたちをむすぶ」

- ・季節のコーナーをつくり、みんなに共有して見えるようにする。(宮前幼稚園)

(ねらい)

- 子どもたちに園内の自然に気づいてほしい。
- 自分の感性を磨く。

◎先生が設置している。職員内で気づいたことなどを話し、みんなでやっている。行事や季節によってやっている。

樹名板をつけていたり、年長組のクラス名が園所有の山にある木に由来している。又、参観でオリエンテーリングを行い、実際の葉を使ってスタンプにした。

- ・横浜自然観察の森事例

①ブラックボックス

研修会

- ②はなをためてみましょう
- ③いきものつながり（マグネットを貼ったり、書き込みができる。）

・ハヶ岳自然ふれあいセンター事例

- ①もぐらのトンネル
- ②これなーに？自然が落としていった物
- ③エナガの巣
（展示手法→ハンズオン）

テーマ3 「ナチュラリストな保育者に」

。写真を見せて、その写真の生き物になって一言言う。

◎ どういう生き物か名前や種類を考えるよりも、その生き物がそこで何を、何を感じているかを思いえがくことが大事。

。ナチュラリスト3つのパターン

A：図鑑型 観察調査を通して生き物の名前や分類を把握するナチュラリスト（主に研究者など）

B：擬人型 自然物を擬人的に見ることを通して、同じ空間に生存する生き物として共感するナチュラリスト

C：理想型 名前や種類もわかるが、同時に擬人的な見方もできる。

◎ 幼稚園の先生に求めたいB：共感するナチュラリスト

※関心を持つことで、やがて名前、種類を知ることに向いていく。

まとめ

ポイント1 幼児環境教育の基本は身近な自然、足元の自然との関係を築く。

≒園庭（公園）の環境を生かして自然の保育をすすめる。

ポイント2 身近な自然と子どもをつなぐ保育に導入方法

①いままでの保育の遊び方に

自然の要素を入れる。

②自然を取り込んだ環境設定を。驚くような、発見するような展示、季節の展示、声かけ。

ポイント3 自然物の“ところ”をつかむナチュラリストになろう。

ポイント4 3つの自然で触れ合いながらナチュラリストとしての感性を高める。（遠くにある大きくて豊かな自然、生活範囲に近い自然、園の自然）

第3回 新任教諭研修会

月 日 平成21年9月9日（水）

場 所 中原市民館ホール

講 師 久保山 茂樹先生

（独立行政法人国立特別支援

教育総合研究所）

テーマ：支援が必要な子どもや保護者とつながりあうために

ーいま、大切にしたいことー

（内容）

プリントやプロジェクターを使いながらの講義。

1. 支援が必要といわれる子どもとの関わり

・日々の保育を少し丁寧にしていけばできるようになる。一人で抱え込まず、先生らしい保育を！迷った時は「統合保育のとびら」を活用する。

・声かけ1つで、子どもは安心する。

（例）

ちょっと動いてもいいよ→安心する

動いてはいけないよ→イライラする

・自閉症の子は触られるのが嫌。（特にそっと触れられるのが嫌）

→では、ギョッとするのは？抱っこした時には
 どのような反応があるか？どのようにしたら
 笑ってくれるのか？

◎試してみないとわからない。怖がらずにいろ
 いろ試してみる。

園で行っている手遊び、保育でその子に合っ
 たものがわかる。

・手遊びの紹介「ラララぞうきん」

①ラララぞうきん ラララぞうきん
 ラララぞうきんをぬいましょう
 チクチクチクチク チクチクチクチク
 チクチクチクチク ぬいましょう

②ラララぞうきん ラララぞうきん
 ラララぞうきんをあらいましょう
 ジャブジャブジャブジャブ
 ジャブジャブジャブジャブ
 ジャブジャブジャブジャブ
 あらいましょう

③ラララぞうきん ラララぞうきん
 ラララぞうきんをしぼりましょう
 ギュッギュッギュッギュッ
 ギュッギュッギュッギュッ
 ギュッギュッギュッギュッ
 しぼりましょう

④ラララぞうきん ラララぞうきん
 ラララぞうきんを干しましょう
 パタパタパタパタ パタパタパタパタ
 パタパタパタパタ 干しましょう

1. 特別支援＝つながる教育・保育

1) 新任のいま、大切にしたいこと

○決めつけないこと…レッテル貼りはしな
 い。レッテルをはがせない。

→「張り直せるラベル」とその蓄積を！
 診断名だけが子どもの全てではない。試す・
 関わる・考えたり・直したりしながら力にし
 ていく。

○わからないことはそのままにしない…
 「はったり」は不信感のもと。

→知らないことは恥ずかしいことではない。

知っているフリをして知識があいまいは、
 恥ずかしい。自分で調べておく。

○そのことを知っている人を知っておく…
 一人で全部できなくてもいい。

→相談し合える仲間作りこそ大切。
 「つながること」を大切にしたい！

2) 特別支援教育、その出発点は子どもが「困っ
 ている」ことへの気づき

○どのクラスにもいる「困った子」と言わ
 れる子どもたち、そして、悪者探しの悪
 循環

→小学校、学級に6%はいる。誰のせいでも
 ない。ある確率で生まれてくる。

○でも…視点を少し変えてみる。
 「困った行動」の背景にある子どもの気持
 ち。

→本当はどんな気持ちで過ごしているのか考
 える。困った行動には必ず理由がある。自
 分の思いを形にすることが難しいというこ
 とを視野に入れて関わる。

3) みんな困っている だからこそ
 つながろう 知恵を出し合おう
 学ぼう！

○誰かに責任を押しつけない、誰かを悪者
 にしないネットワークをつくる。

→恥ずかしがらずに出す。保護者からしっか
 り学ぶ。先輩から沢山学ぶ。

「困っている子ども」を放置しない為に！

「困っている保護者」を追い詰めない為に！

「困っている保育者」を孤立させない為に！

◎それでいいよ だいじょうぶ、を育児の、保
 育の合い言葉に。

○つながる為にこそ大切な仕組み

・園内支援委員会

(園内職員同士がつながる)

・特別支援教育コーディネーター

(園内のとりまとめや、他機関等とヨコに
 つながる)

- ・個別の教育支援計画
(他機関等とタテにつながる)

2. 子どもを見つめるまなざし

子どもたちに伝えたいメッセージ
それでいいよ だいじょうぶ

1) 「障がい」とは何か? 「障がい」はどこにあるか?

○生まれながらの「特性」と生きにくさとしての「障がい」

- ・眼鏡をかけている人が障がい者とは呼ばれない。それはなぜか。

→眼鏡があることでよりよく生きていける。

- ・自閉症、ADHDは、生まれながらの特性。完全に無くすことは難しい。しかし、特性による生きにくさは、周囲が変わることで、防いだり、軽減することができる。

→子どもを表わす言葉を豊かに。

(例)

- 多動な子ども→元気で活発な子ども
- 遊びが広がらない、パターン化している子→集中力がある子
- 支援が必要な子→ひと手間かけてあげたい子

2) 誰にだって得意なところと苦手なところがある

○子どもを多面的にとらえる／全体としてとらえる

(例)

- 話すことに自信がない子→話せる相手はどんな人か?
- 困ったことをする子→どうしてそういうことをするのか?
- 器用じゃない子→「こうなりたい自分」はどんな姿なのか?
- 「がんばりましょう」と言われ続けるつらさ→障がいのある人はいつも頑張るのか?
- 「みんな同じ」という呪縛

○好きなこと得意なことを伸ばして自分の宝

物にすることを忘れないでいたい。

3) 身体の動きにも表現がある／「ことば」がある…表現としての「ことば」

- ・伝えたい心が「ことば」(=表現)を生み出す

・3つの「ことば」

①動作の「ことば」

②視覚の「ことば」

③音声の「ことば」

- ・表現できる身体、表現を受けとめる身体

- ・今、やっておきたい…コミュニケーションの基礎(土台)づくり

- ・○×ではなく、「いいなあ!」「好きだなあ!」「おもしろいなあ!」という見方、言い方

4) 自己肯定感を育む

○自分の思いを思い通りに形にすることが難しい子どもたち だからこそ!

- ・思いを言葉にしたり、「苦手」さにも寄り添う声かけを。達成感や成就感を味わったり、その子なりの自己肯定感を持てるように支援していく。

3. ユニバーサルデザインな保育をつくる

1) バリアフリーとユニバーサルデザイン(障がいのある人が不自由しないような工夫)

2) 「○○かもしれない」で保育を見直す

○視覚障がいや聴覚障がいのある子どもへの支援や、低年齢児への保育を応用(全てが特別なものではない。支援が必要な子がわかる保育はどの子にもわかりやすい。それによって子どもや先生の笑顔も増え、園全体の落ち着きにもなる)

3) ユニバーサルな保育への提案

○情報保障と予告で、見通しと安心

- ・伝わる「ことば」で

動作の「ことば」 | 触れる
揺さぶる
表情
身体表現

視覚の「ことば」 | 実物

写真
絵
文字

音声の「ことば」(話し言葉)

○「居場所(基地)」が確保される

・「あの場所が落ち着く」

→物理的な環境

・「まず、これをしてから」

→心理的な環境

・「あの保育者のそばが落ち着く」

→対人的な環境

○クラスはクラスとして進める

・流れをつくる

・ゴール(目標)を変える

・同じゴールでも支援を変える

◎集団の流れをはっきりと示す。その子が流れにのってきた時がチャンスなので、あまり追いかけすぎないように。見る、居るも立派な参加。

○好きなこと得意なことが活かされる

・一日に褒められる時間をつくることで自信につながる。

II. 保護者への支援、保護者との協働

◎大切なのはじっくりと話を聞き、想像力を働かせながら関わっていくこと。

1. いま乳幼児の保護者が置かれている状況

(1) どうして、いま子育て支援が必要なのか

・子どもとどう関わったらよいかわからない、情報の氾濫。

・マニュアルがあると安心する。

・母子1対1の毎日、母親同士のつき合いの難しさ(本当に相談できる人がいない)、友だちがほしいが公園デビューが大変、近所には「よい母、妻」でいたくて弱みを見せられない。

(2) 本当に求められている子育てへの支援とは

・個にしっかり向き合い、聞くこと

・育児の責任を1人(特に母親)に押しつけないこと

・孤独感、不安全感の払拭

・子どもから離れることも大切

2. 親子の歴史を尊重すること…親子の歴史を想像する引き出し

○「こんな子じゃない」「かわいくない」から始まっていたかもしれない育児

○「もっと愛情をかけてください」と言われた保護者の思い

→乳幼児健診後に障がいが予測された。

○わが子と生きる決意

→その契機になったこととして、決して母親が悪いからこうなったのではないと言われ、安心し自分を見つめ直すことができた。

→障がいの受容というけれど、そう簡単にはいかない。長い時間が必要。揺れ動く保護者の気持ちを受けとめ今を肯定することが大切。

◎子育ての経験がないからわからないではなく、わかろうとする努力が大切。

3. 保護者との信頼関係を築いていく為に

(1) 親子の歴史を知ること、想像すること

→それでいいよ だいじょうぶからの出発。

○保護者のいまを肯定し、他機関でどのような説明や対応を受けたかを聞く。保護者の訴えを固定的にとらえず思いを聞くこと。

(2) お子さんのようすを伝えるということ

○「園の大切なお子さん」という姿勢をしっかりと明確に示す。また、何を大切に子どもと関わっているかを伝え、共有する。その上で専門機関を紹介するのはどうしてなのか、幼稚園としての方針と説明をする。

(3) 「指導する～される」の関係ではないつきあい方

○Nobody's Perfect

保護者も園も失敗のない育児なんてない!

を合い言葉に。1人の女性として男性として、お互いの生き方を尊重する。

研修会

(まとめ)

- 子どもの育ち、保護者の思いをつないでいく
為に
- ・子育ては時々揺らぐけど、でも、ちょっと
自信を持って、時に堂々と
- …その為には

子どもを「それでいいよ だいじょうぶ」と
見つめる保護者・保育者
保護者を「それでいいよ だいじょうぶ」と
見つめる保育者
保育者を「それでいいよ だいじょうぶ」と
見つめる同僚、先輩

- ◎子どもはみんなで育てよう！…子育てを誰か
1人に押し付けないで、誰かを悪者にしないで、
みんなで手を取り合っていくこと。
- ◎幼稚園であることの強みを活かす。障がいの
専門家ではないが、保育者としての経験は豊
富である。

第4回 新任教諭研修会

月 日 平成21年10月21日(水)

場 所 国際交流センター

講 師 山野 さと子先生

武田 恵先生(アシスタント)

テーマ：リズム遊びとオペレッタ入門
～笑顔とエガオでこんにちは～

俯瞰図番号 E5 - 1

①ウォーミングアップ

- ・腕を上にあげたら手はパー
腕を下にさげたら手はグー
その逆も行う(上→グー、下→パー)

②ぐっころりん(ジャンケンゲーム)

- ・2人組になり、“せっせっせーのぐっころりん”と歌いながらジャンケンをする。
勝った人は背を向け肩たたきをしてもらう。

③オペレッタ

「おむすびころりんすっとなん

(阿部 直美先生)

- ・役の紹介 おじいさん/悪いおじいさん
おむすび/まずいおむすび
ねずみ
- ・衣裳、小道具の紹介
- ・講師の先生方による見本
役の特徴をとらえた踊りである。フィナーレ
は1役ずつ交代して前に出て、最後は1列に
並んで行う。
- ・参加者全員で全ての役を踊る。
立ちまわりも行う。全ての役を踊った後、音
楽に合わせて実演する。
- このオペレッタについて
- ・掛け合いのやり取りがおもしろい。
- ・踊りの曲も変化があつておもしろい。
- ・歌詞や雰囲気にあつた振付けである。
- ◎次の動作を先読みしたり、物語を伝えながら
行う。
- ・好きな役に分かれて行う。その後、代表者
が舞台の上で踊る。

④ラッコだっこラッコ(親子ダンス)

- ・2人1組になり、親役と子ども役を決める。
- ◎曲の途中に出てくる掛け声で、ひざをあげた
りほっぺをくつつけるなどしてスキンシップ
をとることができる。間奏は親が子を抱っこ
して歩く。(今回は大人同士だった為好きな
踊りを踊った。)手をつないで回るところは、
他に手をつないだまま前後の動きができる。

⑤ジェットコースターゲーム(人数に合わせて 列になっていくゲーム)

- 1) 1人で歩く
- 2) 「〇人！」といった数でつながり、列をつくる。
- 3) 本物のジェットコースターのように徐々に
動作を早くしながら好きなように動く。

◎列をつくれなかった人はオブジェになったり

するとよい。

(まとめ) 講師の先生より

- ・自分が楽しいと思うことをまずはやってみる。今日を1つのきっかけにして頑張ってもらいたい。子どもたちの為に、笑顔であいましょう。

第5回 新任教諭研修会

月 日 平成21年11月18日(水)

場 所 中原市民館ホール

講 師 細田 淳子先生(東京家政大学)

テーマ:「発表会へ向けての保育計画試案
～遊びのなかではぐくまれる力」

俯瞰図番号 E3-1

講師より…

発表会へ向けての保育計画はどのようにつくっていくべきか。子どもの生活の流れに沿った年間指導計画を受けて、実際の活動や環境設定はどのように考えていったらよいか。

本日は具体的に子どもと音との出会いや、音をよく聞く為の環境設定や、数ヶ月後の発表会に向けて無理な技術指導ではなく遊びのなかで確実な楽しい経験の積み重ねをどのように計画していくことができるのかを考えていきたい。

1. 長期の指導計画と短期の指導計画について(プリンス参照)

- ・一見長期から短期の指導計画をたてるという方向に見えるが、実際は月案や週案の子どもの姿から逆に長期計画の変更した方がよい点が見えてくる。結果として1年後には日案や週案の記録や反省から長期の記録が残る。それが次の年の長期指導計画の基となる。

◎計画=日々の反省。その積み重ねが大きな目標となる。子どものようすを日々振りかえることが大切だが、新任の保育者はなかなか振

りかえられない。だからよく子どもを見てメモをとることが大事。

- 長期を意識しないで短期を立てると“木を見て森を見ない”その日暮らしの保育になる。
- 短期の指導計画に具体化されていない長期計画は“絵にかいた餅”全く子どもに還元されない。

2. 発表会の意義

- ・子どもにとってもっと楽しいものであってほしい。日常とは違う特別な日。
- ・保護者にとって見えない物が見える日。保護者は普段から子どものようすが気になっている。普段とは違う子どもの晴れ舞台。とても楽しみにしている。
- ・園にとって普段の姿と、普段と違った子どものようすを見てほしい。園のアピールにもなる。

◎普段のなかで組み込んで発表会に持っていきたい。遊びのなかで取り組んでいくとよい。

3. どのような発表会か

- ・歌
- ・ダンス
- ・劇
- ・器楽演奏
- ・オペレッタ

→器楽演奏は園によって内容も使う楽器も違う。子どもに負担をかけず、保育者も負担に思わずにできるものが望ましい。

器楽遊びを中心とした年間計画(例)の紹介

1) 3歳児…4月、5月は①音に興味を持つことをねらいとする。

(例) 音が聞こえている間は手を挙げる。
聞こえなくなったら手を下ろす。

②6月には拍子を感じる経験を。

(例) 手合わせ遊び、2拍子に親しむなど

③7月には楽器に興味を持つことにねらいをおく。

(例) オスティナートに楽しむ。

④ 9月にはスズ・カスタネットに親しむ

⑤ 10月には楽器遊びを楽しむことをねらいとする。

2) 4歳児…4月、5月は①音に耳を澄ますことをねらいとする。

(例) ゲームなどで取り入れる。

“あの音はどこへゲーム”

② 6月から身体から出る音に興味を持つ

→ここをとばして楽器を持つことをすると大変になる。

(例) 手合わせ遊びの創作、ボディーパーカッションで伴奏するなど。

◎身体でリズムを感じることができ拍子が取れる。拍子があわなければ器楽合奏はできない。成り立たない。拍子は1番の基礎である。

③ 9月にはその瞬間に叩けるようにする

(例) ハンカチキャッチゲーム

ハンカチを上を投げ、落ちてきたところをキャッチした瞬間に手を叩く。手を叩く以外に声を出すなど工夫できる。

④ 10月には器楽合奏を楽しむことをねらいとする。

3) 5歳児…4月、5月は①音に興味を持って聞くことをねらいとする。

(例) 手作り楽器の創作で音を聞き分ける。保育者ではなく、子どもが2つぐらい作り、音を聞き分けたり好きな音を選んだりする。

② 6月にはリズムの模倣を楽しむ。

(例) ボディーパーカッションの合奏

③ 7月からオスティナートの楽しさを感じる。

(例) ウッドブロック、カバサ、ギロ、トムトムなどに親しむ。

④オスティナートリズムにのって楽しむ。

⑤ 10月からは演奏を聞いてもらう。

(例) 発表会で演奏する。人の演奏を聞く。

4. 器楽あそびを1例として考える (まとめ)

《2パターンある》

①音に興味を持つ、音をよく聞く

↓

身体でリズムを感じる (B、P)

↓

リズムのまねっこ

拍子を感じる (手合わせ遊び)

↓

リズムオスティナート

↓

みんなで合わせる

器楽演奏を楽しむ

②音に興味を持つ、音をよく聞く

↓

楽器と出会う嬉しさを感じる

(誰かが気づくと真似をする。子どもの真似する力はすごい!)

↓

鳴らす楽しさを味わう

(間違えたらどうしようと思っている子は肩があたり緊張する。)

↓

楽器でオスティナート

↓

みんなで合わせる

器楽合奏を楽しむ

◎まずは自分の耳で聞いて、決める力を身につけたい。

●器楽遊びに向いている曲「ぼくらのマーチ」の紹介と実践 (プリントの楽符を見ながら行う。)

・ラッパッパーなどの意味のない言葉も子どもは大好きですすぐ覚える。

・リズムが同じでも音色が違うのでそれぞれの楽器が際立つ。逆に複雑なリズムでパターンが変わっても、見ている人は気づかない。

逆にがちがち聞こえてしまう。

◎大事なのは指揮者の合図。合図が上手に出せなかったら、子どもたちは叩かない。

①次の楽器への合図は、1拍目の前から出す。



②まだ叩かない子に肩を向ける。

③叩く子には目でも合図をする。

④合図を止める時には手をしっかり握り、真横に引く。

→ 4人グループになり実践する。

(指揮者、タンバリン、スズ、カスタネットの役に分かれ全員が各役を経験できるようにする。)

講師より

- ・楽器の位置の固定はない。やりやすいように変えて、うまく合図ができるように。
- ・子どもが負担にならないようにリズム打ちなどを考える。子どもが優先である。

5. ラインダンス (音に合わせて参加者全員行う。)

- ・子どもでもできる。ただし、1番前に保育者がいること。練習しなくても前の人についていき、誰でも楽しめる。